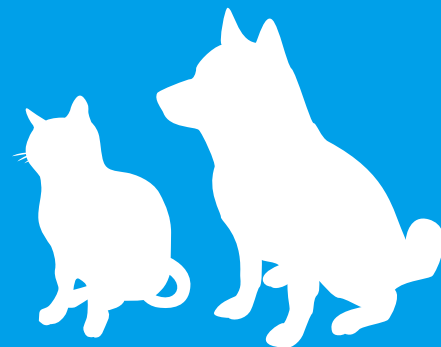


ペットの 防災対策 5か条

備えておこう
災害からペットを
守るために



災害時にペットを守れるのは飼い主だけです。

以下の「防災対策5か条」を日頃から実践してペットの防災対策に万全を期すようお願いします。

第1条 住まいの対策をしましょう！

災害時にペットを守るためには、まず飼い主が無事であることが前提です。住まいの防災について、家具や飼育ケージの固定、転倒防止、落下防止などの対策を適切に講じておけば人とペットの安全にもつながります。

第2条 しつけと健康管理をしましょう！

避難した時は、犬や猫が苦手な人とも一緒になります。ケージやキャリーバッグに慣れていること、むやみに吠えたりしないこと、決められた場所で排泄ができることなどしつけされていることが必要になります。

また、被災したペットはストレスがかかっており、病気や感染症にかかりやすくなります。健康管理の一環として、日頃からペットの体を清潔に保つとともに、適正なワクチン接種による健康管理に努めましょう。

※犬の場合は、「おすわり」「まて」などのしつけや、首輪や引き綱（リード）を嫌がらずに付ける習慣などをつけておきましょう。

※健康や病気などを把握しやすくするために記録をノートやメモ帳などに残し、避難時に携行できるようにしておきましょう。

第3条 所有者明示をしましょう！

突然の災害にペットは驚いて逃げてしまうことがあります。ペットと離れ離れになったときのために、首輪に鑑札、狂犬病予防注射済票、迷子札を装着しておきましょう。万一、首輪が外れてしまってもマイクロチップを装着し、所有者明示をしておけば安心です。二重の対策を取るようしておきましょう。

第4条 ペットのための備蓄品を確保しましょう！

ペットの災害時の備えは基本的に飼い主の責任です。薬、水や餌（保存のきくもの）、飼育用品などを用意しておきましょう。

※猫はキャリーケースに入れて避難することが原則です。

※薬、餌などは、最低5日分。余裕をもって7日分以上用意しておくのが理想的です。

第5条 安全な避難のための情報収集をしましょう！

住んでいる地域の防災計画により、避難場所、避難経路、避難にかかる時間、ペットの受入状況などを確かめておきましょう。様々な災害の場面を想定して、日頃から家族やご近所、飼い主仲間と災害からペットを守る対策について話しあっておくことで良いでしょう。避難所でペットの受入れが困難な時のために、ペットホテル、親戚や友人など、一時預け先についても複数探しておきましょう。

飼い主として
「他人に配慮する」という
最低限のマナーを守ることが大切です！

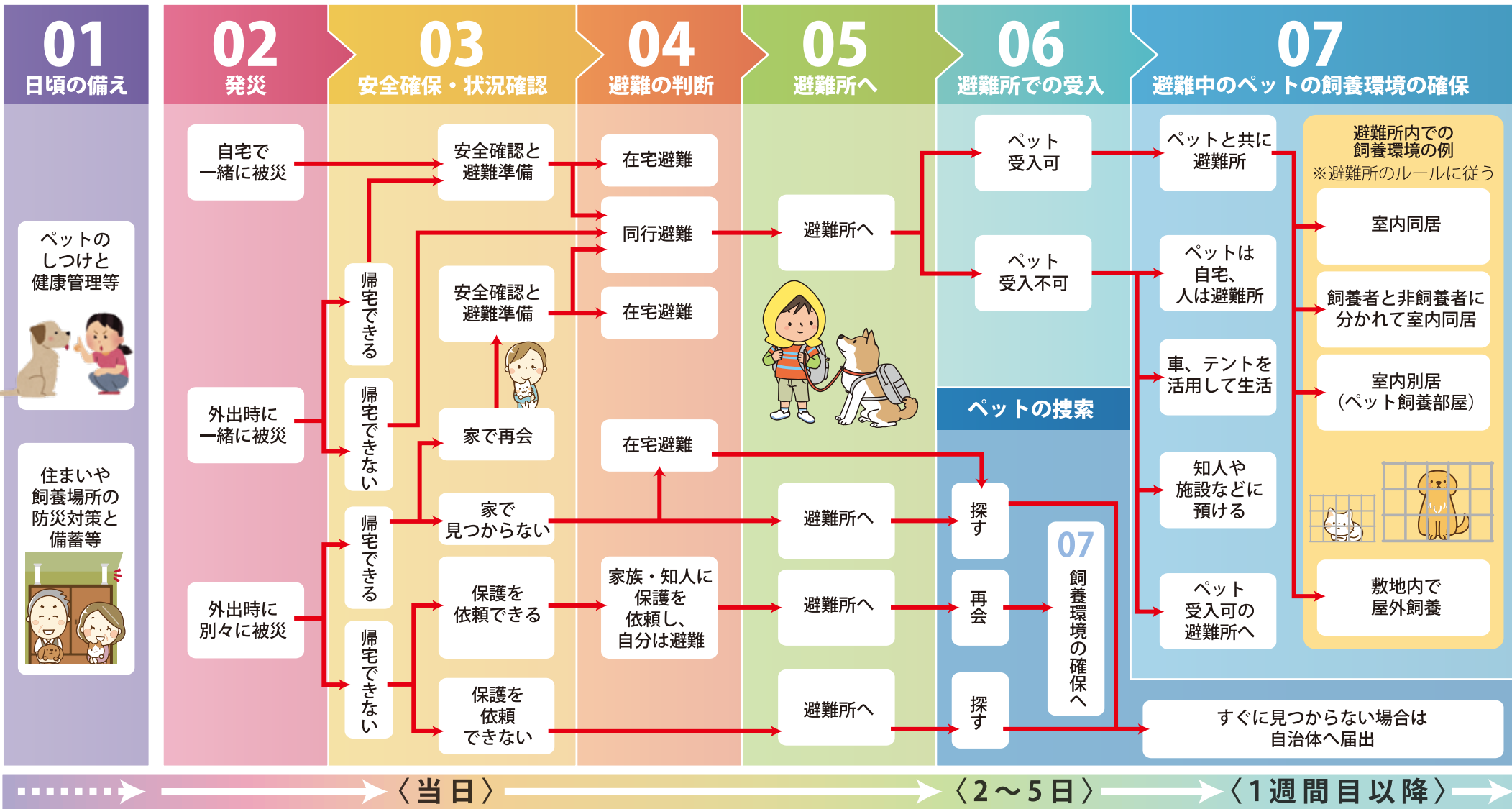
備蓄品及び避難用品

- フード・水（7日分）
- 食器
- 排泄物処理用具・袋
- 常備薬・療法食
- 健康や病気の記録
- ガムテープ
- キャリーケース（猫）、クレート・ケージなど（犬・猫）
- ペットの写真
- 新聞紙・ゴミ袋
- ペットシーツ
- タオル・ブラシ
- 予備の首輪・リード
- トイレ用品（猫砂等）
- おもちゃ

※フードや水は少なくとも5日分、できれば7日以上確保しておきましょう

同行避難のフロー図

出典元：環境省「災害、あなたとペットは大丈夫？」
人とペットの災害対策ガイドライン（一般飼い主編）



- 同行避難とは、避難行動を示す言葉であり、避難所でペットを人と同室で飼養管理することを意味するものではありません。
- 避難所には、指定緊急避難場所や指定避難所などがあります。

栃木県動物愛護指導センター

栃木県宇都宮市今宮4-7-8 ☎028-684-5458

